

パプリカ 病害虫防除暦 2025年(令和7年)

JA庄内たがわ

防除体系(登録薬剤)

※ミカン・ミカンキイロアザミウマ

2025.2.12時点の農業登録情報をもとに作成

時期	対象病害虫										薬剤名	使用量及び希釈倍数	100L当たり薬剤量	使用時期	使用回数	RACコード	備考		
	ナメクジ類	ネコブセンチュウ	アブラムシ類	アザミウマ類※	ハダニ類	チャノホコリダニ	コナジラミ類	オオタバコガ	タバコガ類	ハスモンヨトウ								うどんこ病	
定植前 ~ 定植時		○									ネマトリンエース粒剤	15~20kg/10a		定植前	1回	1:1B	全面土壌混和		
			○	○							プリロックス粒剤オメガ	2g/株		育苗期後半~ 定植時	1回	1:28	株元散布		
			○									ベストガード粒剤	1~2g/株		定植時	1回		植穴処理土壌混和	
生育期			○								ベストガード水溶剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	3回以内	1:4A			
			○	○							モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4,000倍	25g	収穫前日まで	2回以内				
				○				○				ディアナSG	2,500倍	40ml	収穫前日まで	2回以内	1:5		
						○	○	○				アニキ乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	1:6		
								○	○			アフーム乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内			
						○	○	○				コロマイト乳剤	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内			
				○								コルト顆粒水和剤	4,000倍	25g	収穫前日まで	2回以内	1:9B		
				○ ミカン	○				○			コテツフロアブル(劇)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	1:13		
									○			フレオフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	1:UN		
											○	ハチハチ乳剤(劇)	1,000倍	100ml	収穫前日まで	1回	1:21A F:39		
									○	○		プレバソフロアブル5	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	1:28		
				○	○				○	○		ベネビアOD	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内			
				○					○	○		ヨーバルフロアブル	2,500倍	40ml	収穫前日まで	3回以内			
				○								ウララDF	3,000倍	33g	収穫前日まで	2回以内	1:29		
				○	○	○	○					モベントフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	1:23		
												ダニトロンフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	1:21A		
												ダニサラバフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	1:25A	同一成分とみなし連用しない	
												ダニユングフロアブル	3,000倍	33ml	収穫前日まで	1回	1:25B		
												ダニオーテフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	1:33		
			○								○	エコビタ液剤	100倍	1000ml	収穫前日まで	-	1:未	スポット散布 【野菜類での登録(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)】	
		○									スラゴ	1~5g/㎡		発生時	-	1:UN	発生・加害箇所 又は株元に配置		
			べと病	軟腐病	菌核病	斑点細菌病	灰色かび病	炭そ病	黒枯病	斑点病	うどんこ病	疫病	薬剤名	希釈倍数	100L 当たり 薬剤量	使用時期	使用回数	RAC コード	備考
											○	ポリオキシAL乳剤	1,000倍	100ml	収穫開始14日前まで	5回以内	F:19	予防・治療	
											○	トリフミン水和剤	3,000倍	33g	収穫前日まで	5回以内	F:3	予防・治療	
											○	ランマンフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内	F:21	予防・治療	
											○	ユニフォーム粒剤	3g/株		収穫前日まで	3回以内	F:11 F:4 F:M05	予防・治療 株元散布	
											アミスターオブティフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内			予防・治療	
											○	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	F:M05	予防	
											○	カスミンボルドー	1,000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	F:24 F:M01	予防・治療 高温時薬害注意	
			○	○								ドイツボルドーA	500倍	200g	-	-	F:M01	予防 高温時薬害注意 【野菜類での登録】	
							○	○				パレード20フロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	F:7	予防・治療	
												ロブラール水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	4回以内	F:2	予防・治療	
												スクレアフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	F:11	予防・治療	
											○	カリグリーン	800倍	125g	収穫前日まで	-	F:NC	予防・治療 【野菜類での登録 (トマト、ミニトマトを除く)】	

留意事項 ※パプリカにはピーマン、野菜類、なす科果菜類に登録がある農業も使えます。
 ・使用時期の「収穫前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。
 ・農業ごとの作用性を分類したものを「RACコード」といい、製品ラベルなどに表示されている。農業による耐性・抵抗性は、同一農業、同一系統の薬剤の連用がその発生要因であると考えられている。**RACコードが同一であれば、有効成分が異なっても同一系統の薬剤なので、連用は避ける。**
 * 10a当り(300坪)の散布量⇒生育に応じて200~300%

- 適正管理対策**
- 病害虫の発生状況・予察に留意しながら、予防・発生初期防除を心がける。
 - 適正な栽培密度とし、整枝・誘引を実施し、通風・作業性の改善を図る。
 - 圃地の適正な排水管理を行う。
 - ドリフト軽減ノズルや防葉ネット等を出来る限り使用する。
 - ミツバチへの配慮を行う。

- 防除機具の洗浄不足対策**
- 防除器具は、前回散布後にじゅうぶん洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整前にもう一度通水し洗浄しましょう。
 - 防除器具は使用後、通水で3回以上洗浄しましょう。
 - 洗浄水は川や下水などに流さないようにしましょう。

パプリカ 病害虫防除暦 2025年(令和7年)【天敵導入】

JA庄内たがわ

防除体系(登録薬剤)

※ミカン-ミカンキイロアザミウマ

2025.2.12時点の農業登録情報をもとに作成

時期	対象病害虫										薬剤名	使用量及び希釈倍数	100L当たり薬剤量	使用時期	使用回数	RACコード	天敵影響★ 影 残	備考	
	ナメクジ類	ネコブセンチュウ	アブラムシ類	アザミウマ類※	ハダニ類	チャノホコリダニ	コナジラミ類	オオタバコガ	タバココガ	ハスモンヨトウ									うどんこ病
定植前											ネマトリンエース粒剤	15~20kg/10a		定植前	1回	I:1B	◎ 0	全面土壌混和	
定植時											プリロソク粒剤オメガ	2g/株		育苗期後半~定植時	1回	I:28	--	株元散布	
(天敵導入前) 生育期											ベストガード粒剤	1~2g/株		定植時	1回	I:4A	× 40 ↑	植穴処理土壌混和	
											ベストガード水溶剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	3回以内		× 40 ↑	散布してから天敵導入まで、左記の日数を空けること。天敵導入後は使用しない。	
											アフーム乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:6	× 14 ↑		
											ディアナSC	2,500倍	40ml	収穫前日まで	2回以内	I:5	× 14		
											ベネビアOD	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:28	○ 7		
											トスパック	0.5~2/10a(約500~2000頭)		発生初期	-	I:未			下記の注意点を参照ください
生育期(天敵導入前・後共通)											アニキ乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:6	◎ 0		
											コテツフロアブル(劇)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:13	○ -		
											ブレオフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	I:UN	◎ 0		
											ブレバソフロアブル5	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	I:28	◎ 0		
											ヨーバルフロアブル	2,500倍	40ml	収穫前日まで	3回以内		◎ 0		
											ウララDF	3,000倍	33g	収穫前日まで	2回以内	I:29	◎ 0		
											モベントフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:23	◎ 0		
											ダニトフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	I:21A	◎ 0		
											ダニサラバフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	I:25A	◎ 0	同一成分とみなし、連用しない	
											ダニコングフロアブル	3,000倍	33ml	収穫前日まで	1回	I:25B	◎ 0		
											ダニオーテフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:33	◎ 0		
											エコピタ液剤	100倍	1000ml	収穫前日まで	-	I:未	○ 1 薬液乾燥後は影響ない 影響はないと考えられる	スポット散布 【野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)での登録】 発生・加害箇所又は株元に配置	
											スラゴ	1~5g/m ²		発生時	-	I:UN			
											ベト病								
											軟腐病								
											菌核病								
											斑点細菌病								
											灰色かび病								
										炭そ病									
										黒枯病									
										斑点病									
										疫病									
										ポリオキシAL乳剤	1,000倍	100ml	収穫開始14日前まで	5回以内	F:19	◎ 0	予防・治療		
										トリフミン水和剤	3,000倍	33g	収穫前日まで	5回以内	F:3	◎ 0	予防・治療		
										ランマンフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内	F:21	◎ 0	予防・治療		
										ユニフォーム粒剤	3g/株		収穫前日まで	3回以内	F:11 F:4	-	予防・治療 株元散布		
										アミスターオプティフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	F:11 F:M05	--	予防・治療		
										ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	F:M05	◎ 0	予防		
										カスミンボルドー	1,000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	F:24 F:M01	--	予防・治療 高温時薬害注意		
										ドイツボルドーA	500倍	200g	-	-	F:M01	--	予防 高温時薬害注意 【野菜類での登録】		
										パレード20フロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	F:7	◎ 0	予防・治療		
										ロブラール水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	4回以内	F:2	◎ 0	予防・治療		
										スクレアフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	F:11	◎ 0	予防・治療		
										カリグリーン	800倍	125g	収穫前日まで	-	F:NC	◎ 0	予防・治療 【野菜類(トマト、ミニトマトを除く)での登録】		

留意事項 ※パプリカにはピーマン、野菜類、なす科果菜類に登録がある農業も使えます。
 ・使用時期の「収穫前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。
 ・農業ごとの作用性を分類したものを「RACコード」といい、製品ラベルなどに表示されている。農業による耐性・抵抗性は、同一農業、同一系統の薬剤の連用がその発生要因であると考えられている。**RACコードが同一であれば、有効成分が異なっても同一系統の薬剤なので、連用は避ける。**
 * 10a当り(300坪)の散布量⇒生育に応じて200~300%

★天敵等への殺虫・殺菌剤の影響、天敵等への殺菌剤の影響(アリスライフサイエンス株式会社 2024年10月作成 第35版)より
 ・影:天敵であるタイクヒメハナカメムシの卵・幼虫・成虫等に対する影響を総合的に評価したもの(◎:影響が小さい ○:若干の影響あり △:影響あり ×:強い影響あり)
 ・残:その農業が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数。数字の横に↑があるものはその日数以上の影響がある農業。

- 適正管理対策**
- 病害虫の発生状況・予察に留意しながら、予防・発生初期防除を心がける。
 - 適正な栽培密度とし、整枝・誘引を実施し、通風・作業性の改善を図る。
 - 圃地の適正な排水管理を行う。
 - ドリフト軽減ノズルや防葉ネット等を出来る限り使用する。
 - ミツバチへの配慮を行う。
- 防除機具の洗浄不足対策**
- 防除器具は、前回散布後にじゅうぶん洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整前にもう一度通水し洗浄しましょう。
 - 防除器具は使用后、通水で3回以上洗浄しましょう。
 - 洗浄水は川や下水などに流さないようにしましょう。

- ※天敵(トスパック)導入時の注意点**
- 粘着版を設置してアザミウマの発生状況を確認し、導入時期の目安とする。
 - アザミウマの発生が確認されたら導入する。定植後45日頃が目安(定植時のベストガード粒剤の効果約45日間のため)
 - 天敵導入後に芽かき・葉かきをする場合は、かいた葉などはハウス外に出さず、コンテナなどに入れ10日間程はハウス内に置いておく。(天敵がわき芽や葉に卵を産むため)
 - 導入後2~3週間間はできるだけ薬剤防除、葉面散布などはしないことが望ましい。